

ベッドサイドの環境デザインの改善

～患者の入院生活の質を高める廊下の距離表示作成～

研究の背景

入院患者さんは治療に臨むために非日常的な環境に置かれ、不便な思いをすることがあります。もっと患者に生活者の視点から良い環境を提供したい。そんな思いが発端で 2013、「BED Project(ベッドプロジェクト)」を結成しました。浜松の保健医療福祉の関係者、産業、研究機関など、様々な業界の専門職者の知を結集し一堂に会してワークショップを開催した結果、116 のアイデアを創造しました。

今回の取り組み

今回、この 116 のアイデアの中の廊下のデザインに着目しました。循環器に関わる病棟の廊下には、急性心筋梗塞などのリハビリテーションのために歩行距離を示す表示がありますがビニールテープに距離が手書きで表記されているなど簡素なものが多いのが実情です。従来単なる距離表示から、デザイン分野の学問的な知識を用いて療養環境の廊下をより魅力的にすることを提案し、療養環境のデザインにどのような価値が求められているのか分析しました。

研究方法

アイデアを創造するためのワークショップを開催しました。対象は看護師 3 名(高度救命救急センター 2 名、精神科 1 名)、産業デザイナー 1 名、デザイン学部教員 1 名、デザイン学部の学生 2 名、計 7 名です。

結果

看護師、教員、学生、デザイナーが参加したアイデアワークショップにより、景勝地の写真と距離表示を組み合わせた廊下のアイデア「日本百景」や、音楽や自然画像とともに看護師が付き添いながら歩行距離や心電図を確認できる電光掲示を備えた廊下「ハートビートストリート」など 22 件のアイデアが創造されました。



患者さん中心のデザインを、デザイン思考を活用し構築してゆく意義を訴えかける結果でした。

今後、病院内の他の環境のデザインも検討していきたいと思います。

研究者

炭谷正太郎（聖隷クリストファー大学）
渡邊真智子（聖隷三方原病院）

